室蘭の地域貢献企業トップにインタビュー

新和Ｒｏｃｋ継続

作業請負業や港湾運送事業の新和産業（本社・室蘭市仲町、内山道代表取締役社長）と鉄鋼業のＫＯＳＥＩホールディングス（本社・同、菊地伸太郎代表取締役社長）がさまざまな地域貢献活動に取り組んでいる。８月には市内初の高校生を対象とした野外音楽フェス「新和Ｒｏｃｋ2026」を開催。各種協賛や寄贈など室蘭を盛り上げる活動を幅広く継続していく考えだ。内山社長と菊地社長に今後の展開や思いを聞いた。

（インタビュー・能登哲也執行役員編集局長兼メディア局長）



「〝新和産業〟らしさを続けたい」と語る内山社長



「地域の未来を一緒につくる企業に」と話す菊地社長

―「新和Ｒｏｃｋ」の振り返りと今後の展望をお願いします。

▽内山社長　やってよかったと思います。何より高校生がとても輝いていました。まぶしすぎた。

参加したメンバーの中には、目指していた賞を獲れずに悔しがり「来年もぜひ開催してください。〝2万5千倍〟頑張ります」と訴えてきた生徒もいました。われわれもうれしかったですし、そうした声に応えていきたいと思っています。

来場者の反応も想像以上でした。孫の活躍を見ようと、おじいちゃん、おばあちゃんが立ち見席でノリノリになって応援している姿は見ていても楽しかったですね。

また、発表を見守っていた父親からは、わが子の違う面を知ることができたという話も聞きました。家族のつながりを再発見する機会にもなったのではないでしょうか。

今後の展望として毎年開催していきます。一日限りの開催では出場できる組数にも限界があり、今回同様、西胆振地区が中心になると思います。

一方、プロに組んでいただいたステージは素晴らしく、一日だけではもったいないという声も各方面から多数いただいています。2日間に分けて開催することも一つの案。大学生や社会人、プロなどにも広く参加の機会を提供できないか、可能性を探っていきたいと思います。

▽菊地社長　初めての開催ということもあり、高校生たちにどれだけ楽しんでもらえるのか、どれだけ多くの方に足を運んでいただけるのか、また、地域の皆さまにご理解いただけるのかなど当初は不安もありました。

しかし、結果として参加してくれた高校生たちの笑顔や涙が物語っているように、非常に意義のあるイベントになったと感じています。

開催場所や機材の設営・運営にご協力いただいた皆さまをはじめ、私たちの思いに共感し、出演してくださったＴＲＩＰＬＡＮＥさんをはじめとするプロ・セミプロのミュージシャンの皆さま、遠方からも駆けつけてくださったキッチンカーの皆さま、音とビジュアルの両面からイベントを盛り上げてくださったラビワクさん、そして、企画・準備から当日の運営まで献身的に支えてくれたスタッフの皆さんなど本当に多くの方々の力があってこそ、無事に成功を収めることができたと思っています。改めて関係者の皆さまに感謝申し上げます。

来年の開催については、すでに大まかな日程も決まり、実現に向けて準備が始まっています。具体的な内容はこれから詰めていく段階ですが、開催期間を1日から2日間に延ばすことや会場の設営方法を見直すことなどさまざまな議論を進めています。

今後も地元の高校生たちが日常を忘れて思い切り楽しめ、いつまでも心に残るようなイベントを目指して、さらに発展させていきたいと考えています。

―2社タイアップについて。

▽内山社長　素晴らしかったというのが率直な感想です。人手不足や知名度不足、地域貢献への意欲など共通する課題や思いがあり、信頼できる企業としてＫＯＳＥＩさんにお声がけしました。

実際に当社にはないアイデアを出していただいたほか、資金面でも協力していただきました。両社でイベント業務に関するさまざまな作業を分担する中で、社員同士の絆や信頼関係も生まれました。ＫＯＳＥＩさんとのつながりを得られたことは、企業として何物にも代えがたい経験と財産です。本当にありがたく思っています。

▽菊地社長　最初にお誘いいただいた際、自分自身の高校時代を振り返ってみても、高校生が多くの人の前で演奏を披露できるような機会はほとんどなかったように思います。そうした意味でも高校生たちにとって、かけがえのない経験となり、いつまでも心に残る素晴らしいイベントになるのではないかと感じました。

今回、新和産業さんには発案から企画、準備に至るまで、中心となって多大なご尽力をいただきました。弊社としても、その熱意と行動力に引っ張っていただいた部分が大きく、こうした素晴らしいイベントに一緒に参画させていただけたことを大変ありがたく思っています。改めて感謝申し上げます。

企業同士がそれぞれの強みや思いを持ち寄ることで、単独では実現できない地域への貢献ができるということも今回改めて感じました。

心に残るイベントに／地域の未来を一緒につくる

高校生まぶしすぎた／〝新和産業らしさ〟続けたい



高校生バンドグループにとって貴重な演奏ステージとなった新和Ｒｏｃｋ（提供写真）

▲当日の様子が見られるインスタグラムの2次元コード

Shinwasangyou Co.Ltd. Since 1898
新和産業株式会社
本社・室蘭事業所　室蘭市仲町12番地　TEL.0143-44-2175
苫小牧支店　苫小牧市新明町1-3-14　TEL. 0144-55-3271
千葉事業所　千葉県市原市青柳2-1-13　TEL. 0436-37-2143
製鉄事業、製油事業、倉庫事業、港湾運送事業、シャーシ、コンテナ輸送事業
HP　インスタグラム

2026年5月ホールディングス体制へ。
グループの力を結集し、新たな成長ステージへ挑戦します。
幌清株式会社
KOSEI CORPORATION
室蘭本社　室蘭市仲町12番地　TEL 0143-44-2309
君津事業所　千葉県君津市君津1番地　TEL 0439-52-0091
「技」と「情熱」を持って
鉄鋼地場企業から世界へ飛躍!!
HPはこちら　HP　Instagramはこちら　Instagram

◆― 人手不足 ―◆

―人手不足の中での人材確保策や今後の取り組みはいかがですか。

▷内山社長　人手不足問題に妙（みょう）薬はありません。地道な採用活動を続けていくしかないと思っています。

採用活動の第一歩は、まず企業を知ってもらうことです。求職者に認知されていない企業は、興味・関心を持ってもらう機会すら得られません。そもそも、就職先の選択肢にすら挙がらない可能性があります。

さまざまな地域貢献活動を通じて、まずは新和産業の知名度向上につなげていきたいですね。

▷菊地社長　これまでは地元の工業高校を中心に採用活動を展開してきましたが、全国的な人材不足が進む中、地元だけで必要な人材を確保することは容易ではありません。そのため、従来の採用活動にとどまらず全道各地、さらには東北地方の高校にも足を運び、当社の仕事や魅力を知っていただく活動を進めています。

また、人材紹介会社などさまざまな採用手段も積極的に活用しています。近年では、技能実習生を受け入れるなど人材確保の間口も広げてきました。一方、定年延長なども進めており、豊富な経験と技術を持つベテラン社員の力も当社にとって欠かすことのできない財産です。

現在は人材の採用だけでなく、入社してくれた社員にいかに長く、意欲を持って働き続けてもらえるか、つまり「人材の定着」へ重点を置いています。

そのためには賃金などの金銭的な処遇はもちろんのこと、福利厚生や各種支援制度の充実も重要だと考えています。さらに、将来のキャリアパスや成長機会を明確に示すこと、社内公募制度などを通じて自らの可能性に挑戦できる環境を整えること、働き方の柔軟性や誰もが安心して意見を言える心理的安全性の高い職場づくりなどにも取り組んでいます。

人材不足という厳しい環境だからこそ、社員一人一人が自分の成長や仕事のやりがいを実感でき、安心して働き続けられる会社であることが大切です。これからも採用と定着の両面から、持続的な人材確保に取り組んでいきたいと考えています。

◆― 地域貢献 ―◆

―積極的に地域貢献活動を展開しています。

▷内山社長　創業130年を間もなく迎える企業として350人の仲間と共に、縮小していく地方都市・室蘭をなんとか盛り上げられないか。これまでお世話になってきた地域に、行政だけでは実現が難しいような取り組みを市民の皆さんに提供できないか。そんな発想が私たちの地域貢献活動の始まりです。

具体的には児童書や知育玩具を各自治体や団体に寄贈する「伊達直人プロジェクト」、小学校周辺の通学路を整備する「草刈りボランティア」、中学バスケットボール新人戦の冠大会「新和産業カップ」など幅広く取り組んでいます。一貫しているテーマは「子どもイコール未来」です。

地域ＦＭでは、まちの音楽シーンを応援する番組「Ｒｏｃｋ　ｄｅ　ないと」も展開しています。新和Ｒｏｃｋを含め、文化・芸術・スポーツと幅広い分野で明るく、にぎやかに、そして〝ちょっとワイルド〟に「新和産業らしい」活動を続けていきたいと思っています。

▷菊地社長　近年、地元の高校生や各種団体への協賛金・支援金、物品の贈呈など地域貢献活動の幅を広げています。最近では室蘭スティーラーズＪｒチームへチームジャージを贈呈させていただきました。

こうした活動の多くは地域の子どもたちを応援したい、スポーツを通じて健やかに成長してほしいという当社スタッフの思いから実現したものです。スポーツに真剣に打ち込む子どもたちの姿は本人たちの成長だけでなく、地域にも元気や活力を与えてくれるものだと思います。仲間とともに思い切りプレーし、かけがえのない経験や思い出をたくさんつくってほしい。そんな願いも込めています。

私自身、地域に根差して事業を営む企業として、地域とのつながりや次の世代を担う子どもたちを応援することは大切な役割の一つだと考えています。今後もこうしたご縁や機会を大切にしながら、決して大きなことばかりではありませんが、私たちにできることを一つずつ積み重ね、地域に貢献していきたいと考えています。

「地域に支えられている企業」から「地域の未来を一緒につくる企業」へ成長していけたらと考えています。